



えんぴつ 鉛筆のしんはどうしてどくがあるの

いま えんぴつ 鉛筆のしんには、どく 毒はない

むかし えんぴつ 鉛筆のしんは、なまり 鉛をたくさんい つく 鉛筆という文字に「鉛」という文字を使うのは、えんぴつ 鉛筆のしんに鉛が入っていたためです。鉛は体からどく 毒なので、鉛筆のしんをなめると、どく 毒だといわれていました。

しかし、いま 今、みなさんが使っている鉛筆は、どく 毒ではありません。えんぴつ 鉛筆には、きたないごみや、からだ わる 悪いばい菌などがついているので、どく 毒ではなくても、なめたりしないようにしましょう。

いま えんぴつ 鉛筆のしんは、こくえん せき 黒鉛(石ぼく)という、すみ 炭のような黒い粉と、ねんど ねん土を練り合わせたものを、たか おんど や 高い温度で焼いてつ く 作ります。

えんぴつ 鉛筆のしんには、やわらかいものと、かたいものがある

えんぴつ 鉛筆には、エイチビー ビー ビー エイチ エイチ しゆるい 種類がありますが、ビー おお Bが多くなるほど、しんがやわらかく、エイチ おお Hが多くなるほど、しんがかたくなります。

それは、こくえん 黒鉛とねんど ねん土の、ま あ わりあい 割合によって変わります。しんがやわらかいものは、こくえん わりあい おお 黒鉛の割合が多く、しんがかたいものは、ねんど わりあい おお ねん土の割合が多くなっています。

はっきりとした、じ か 字が書きたいときは、えんぴつ 鉛筆をなめたりしないで、しんがやわらかい鉛筆を使うようにしてください。(監修・青木 国夫)

